



あそぶ



つながる



第20期 年次報告書 2024.9～2025.8

Contents

- 団体概要…1
- 第20期 事業報告…2～14
- 第20期 会計報告…15
- ふれいおん・とかちのあゆみ…16
- メディア記録…17
- 会員の声、To21期…18

育ちあう



認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ふれいおん・とかち



ふれいおん・とかちは、あそびや体験を中心とした活動を通じて、乳幼児から祖父母世代までの多世代がゆるやかにつながり合い、子育て親育ちができる環境づくりに取り組んでいる非営利の民間団体(NPO法人)です。1973年「十勝おやこ劇場」設立から、1988年「帯広西おやこ劇場」分割設立を経て、2006年に現在の名称で法人化。「ふれいおん (Play on)」には、「もっと遊ぼう!」「みんなで遊ぼう!」という思いを込めました。

子どもを取り巻く環境はめまぐるしく変わっていきませんが、「子育てはみんなで～子どもも親も人と人との関わり合いの中で育ち合う」という普遍的価値を大切に守りながら、活動を続けています。

- 名 称 認定特定非営利活動法人 子どもと文化のひろば ふれいおん・とかち
- 所在地 北海道帯広市西20条南5丁目18-2
- 役 員 理事長 今村 江穂 / 理事10名 / 監事2名
- 会員数 【正会員】 148世帯 437名
 会費 個人会員：1,200円/月 家族会員：2,200円/月
 ※第一子未就学児世帯、非課税世帯、十勝管外在住者に割引あり
 【サポーター会員】 個人83名 / 法人・団体29件
 サポーター会費：個人 一口 3,000円/年 法人・団体 一口10,000円/年
 ※2025年8月現在

- 事業内容
 - ・芸術文化体験事業
 - ・生活文化体験事業
 - ・子育て支援事業
 - ・地域ネットワークづくり事業
 - ・広報誌発行事業
- 受賞等
 - 2018年 北海道「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」
 - 2020年 非営利組織評価センターによる評価
「グッドガバナンス認証」(2024年更新)
 - 2020年 内閣府「子どもと家族・若者応援団」
子育て・家族支援部門
内閣府特命担当大臣表彰
 - 2023年 全国森林レクリエーション協会
地域美しの森づくり活動コンクール
特別奨励賞受賞
 - 2024年 こども環境学会活動賞受賞
 - 2024年 森と人を育てるコンクール木育部門 最優秀賞

私たちが大切にしたいこと

正解を求めず、
対話をしよう

子どもの力を
信じて待とう

「思い」を言葉に、
「願い」を行動に

ひとりでしない、
ひとりにしない

＼作成ストーリー／

あそび心を
ポケットに



ご寄付

地域の皆さまから様々な形で
ご寄付をいただいています

- 株ホーム創建様より子育て支援として 193,100円
- 帯広南商業高校様より 117,951円
- Amazon「みんなで応援プログラム」
物品寄付／総額 35,187円分
- 未使用切手、書き損じ葉書 77,447円分
- イオン幸せの黄色いレシート 34,900円 (ギフト券)
- 北海道ろうきん帯広支店様より災害備蓄食品

その他、物品寄付やご協賛など
温かいご支援をありがとうございます。

▲認定NPO法人アカツキ「立ち止まり対話するための助成金」を受けて作成。



理事長 今村江穂

20期を振り返って

新たなスタートを切った一年

今期は、「持ち寄って楽しもう！！子どもと共にみんなの居場所づくり」を活動テーマに取り組んできました。子どもも大人も緩やかにつながり合って育ち合えるふれいおんの活動が、この先も地域に根差して持続していくために、組織や運営の方法、体制を見直し、新たなスタートを切った一年です。会員の声を聴き合い、一人ひとりが大切にしたいこと、思いを行動指針として掲げることができたことも、大きな一歩になりました。



地域社会になくてはならない場所

〈楽しいところに人は集まる〉ものですから、会員一人ひとりが自分にできることを持ち寄り、面白がって活動の担い手になることを工夫しながら取り組んできました。また、子ども基本法の成立に合わせ、子どもの権利について学び、「子どもの声を聴く」ことや、「子どもが自分で考えて決める」ことを体現していきたいと考え、活動してきました。

子どもも大人も一人ひとりの力を持ち寄ることで、多世代が緩やかにつながり、それぞれが安心して自分らしく過ごせる居場所になります。妊娠期から、人と人とのつながり合いの中で自分らしい子育てを見つけ、子どもと一緒に大人も成長できる場所。子どもにとっても多様性のある緩やかな関係性の中で、ゆっくりと時間をかけて育ち合える場所。今、地域社会になくてはならないコミュニティだと自負しています。



20期理事メンバー

“持ち寄る”ための
仕組み！

「聴き合う会」の取り組み



2024年1月にスタートした新しい組織体制《理事会と聴き合う会の両輪で会を運営する仕組み》を試行錯誤で進めてきました。じっくり話せる1泊2日の「聴きあう宿舎」や、会員みんなで未来のビジョンを共有する「未来ワークショップ」も実施し、多様な声を聴き合うことができました。また、聴き合う会で会員の声を聴きながら作成した「私たちが大切にしたいこと（行動指針）」が、すでに実際の活動に活かされてい

ることや、聴き合う会に対する会員のニーズや捉え方が見えてきたことは、未来につながる成果です。今後も会員相互の交流を大切に、一人ひとりが主体的に関われる運営の仕組みを「聴き合う会」を通じて考え続けていきます。



聴き合う会担当 久保美香

事務局のまとめ

今期事務局長を引き継ぎました。経理・労務・総務など多岐にわたる業務に、初心者マークが外れるまでまだまだ時間がかかりそうですが、とてもやりがいを感じています。会員さんや地域の方にとって、信頼できて、親しみの持てる事務局となれるように、スタッフ皆で楽しく成長していきたいです。お気軽にご連絡くださいませ！



事務局長 嶋野奈津美



事務局スタッフ

第20期 事業活動報告

2024年9月1日から2025年8月31日まで

事業名		日程	内容	場所	参加人数 (名)	ボランティア (名)
体 芸 験 術 事 文 業 化	鑑賞企画部	2025.5.6	人形劇団野良犬プラス「おかえし」「おむすびころりん」	ぶれいおん(以下ぶ)	120	23
		7.27	コマのたけちゃんのあそびあそび！	緑西コミセン	160	20
	図書部	2024.12.8	本DEもち	ぶ	42	6
		2025.7.2	本の交流会 テーマ「水」	緑西コミセン	9	8
		8.26	かがり火発行 (150部)			8
	りとるびーんず	2025.2.15	ねんどで動物園をつくろう 講師：佐藤直弥さん、村中鉄也さん	ぶ	18	2
		5.24	風薫る五月のお茶会 講師：坂本芳美さん	講師宅	14	2
生 活 文 化 体 験 事 業	あしあとの森 ※帯広市緑の募金緑化活動助成(2024年/2025年度)	2024.9～8	毎月1回、計11回実施。森づくり、あそび、コミュニティの場として実施。内容：道づくり、チョウセンゴヨウ伐採、散策、昆虫探し、焚き火パン、焼きビー玉づくりなど	あしあとの森	延べ322	延べ43
		2025.3.9	救命救急講習会 講師：佐藤悦弘さん	帯広の森・はぐくむ	18	3
	森のこどもらんど	2025.5.18	今日は森の日！	帯広の森・はぐくむ	530	100
	あそび屋かるちゃー	2024.9.15	大卓球大会まるよ杯／キャンプ報告会	ぶ	61	6
		10.26-27	秋合宿事前おとまり会	ぶ	12	2
		11.3	タイヤ交換会	ぶ	6	2
		11.16-17	秋合宿	清水町少年自然の家	24	6
		2025.1.11-13	スキー合宿	日高国際スキー場	14	3
		2.15	スキー合宿報告会	ぶ	25	3
		2.22-23	雪中アドベンチャー	八千代牧場	35	10
		3.15	クイズ大会	ぶ	24	3
		5.3	草野球&焼肉	グリーンパーク	13	3
		7.19-20	夏のお泊り会	札内川/集団研修施設こまはた	53	19
		7.21	高学年キャンプ事前集会	ぶ	15	2
		8.9-11	高学年キャンプ	清水町少年自然の家	26	10
		8.15	高学年キャンプ反省会	グリーンパーク	15	3
		8.24	中高生勉強会	ぶ	14	2
	子ども参画事業		各事業内で実施(冬のお泊まり会、春合宿、カフェスペース等)			
子 育 て 支 援 事 業	帯広ファミリーサポートセンター ※帯広市委託事業	2024.11.5～21	提供会員講習会 (全6日) ※実人数29名	保・福センター/ぶ	延べ139	0
		12.10	会員交流会「アロマジェル作り」	保・福センター	11	0
		2025.2.7	事業説明会(保育関係者向け)	〃	24	0
		2.19	提供会員・両方会員茶話会	〃	6	0
		5.26～6.13	提供会員講習会 (全6日) ※実人数25名	保・福センター/ぶ	延べ107	0
		7.9	会員交流会「体軸体操」	保・福センター	11	0
	プレイセンター にじっこ ※協賛：ホーム創建 ※キリン福祉財団助成事業 (2024年/2025年度)	2024.9～2025.8	週2回 計99回開催	ぶ/ 帯広の森・はぐくむ	延べ1391	延べ103
		2024.9～2025.8	月2回、計21回／毎回テーマを設けたミニ講座を実施 テーマ：性教育、わらべうた、お産のはなし、赤ちゃんのケガ病 気、赤ちゃんの発達、絵本、防災講座、生活リズムあそび、プ レママプレババ、パパ交流など	ぶ	延べ301	延べ21
		2025.8.30	おうちで性(生)教育 講師：山田亜弥さん ※にじっこ共催	グリーンプラザ	55	7
地 域 ネ ッ ト ワ ー ク づ くり 事 業	寺子屋	2025.1. 3、8月	小学生以上対象、学習と自由遊び	ぶ	延べ72	延べ21
	百人一首大会	2025.3.2	第33回 百人一首大会	帯広西コミセン	50	9
	土曜地域開放あそび場 しゃべり場 ※WAM助成 (2024年/2025年度)	2024.9～2025.8	計12回 自由あそび・多世代交流	ぶ	延べ264	延べ24
		2025.8.3	子ども夏まつり会 ※協賛/協力：20条希望町内会、帯広ライオンズクラブ	きぼう第2 児童公園	200	30
	アトリエスペース ※WAM助成(2024年/2025年度) ※帯広市委託事業(ひろびろ チョイス伴走型相談支援 事業、体験学習)	2024.9～2025.8.25	不登校児童生徒等を対象にした平日の居場所づくり 計51回	ぶ	延べ211	延べ61
		2024.9～2025.8	保護者相談 計50回実施 (WAM助成、帯広市委託)	ぶれいおん	延べ50	50
		2024.9.13	講演会「学校が安心して楽しく過ごせる学びの場になるために」 講師：清末有二さん(芽室町教育委員会)、 千葉孝司さん(千葉T LABO/サポーター会員)	グリーンプラザ	70	3
	よるスペース ※WAM助成(2024年/2025年度)	11.3	カフェスペース ※こども有志企画	ぶ	42	5
		2024.9～2025.8	小学5年生以上を対象にした居場所づくり 計12回	ぶ	延べ173	延べ34

地域ネットワークづくり事業	ごちゃまぜスポーツ	2024.9-2025.8	体育館で自由に軽スポーツ 計11回	緑丘小学校体育館	延べ122	延べ18
	ブロック活動	2024.9～2025.8	西ブロック会 計8回 南ブロック会 計11回 北ブロック会 計11回 芽室ブロック会 計6回 みどりブロック会 計9回	ぶ/個人宅等 ぶ/森の交流館等 ぶ/よつ葉アリーナ等 東めむろコミセン等 ぶ/緑西コミセン等	延べ50 延べ236 延べ263 延べ100 延べ83	延べ21 延べ22 延べ12 延べ16 延べ9
発行事業	『コノコト』 ※協賛:ホーム創建、 20条小児科内科クリニック	2025.5.10	「小さなおさんぽにでかけよう」4,000部発行 紙面協力:森のおさんぽ研究会、20条小児科内科クリニック 帯広市乳幼児健診(7か月、1歳半)、芽室町乳幼児健診配布	十勝管内		2
法人本部	※1)認定NPO法人 アカツキ助成事業 ※2)NPO組織基盤助成ボラン ティア推進プログラム助成事業	2024.9.10	部長サミット	ぶ	14	3
		9.24	理事会	ぶ	8	0
		10.5	第3回聴き合う会「持ち寄り大夕食会」※1	グリーンプラザ	65	5
		10.20	定期総会	帯広西コミセン	37	16
		11.8	ブロック役員会	ぶ	9	1
		11.23-24	第4回聴き合う会「聴き合う合宿」※1	土幌ヌブカの里	21	6
		12.13	理事会	ぶ	8	0
		2025.2.9	第5回聴き合う会「ききあうカフェ」※1	グリーンプラザ	26	4
		3.15	理事会	ぶ	9	0
		3.18	ブロック役員会	ぶ	8	0
		4.19	部長サミット	ぶ	9	0
		6.21	第6回「聴き合う会、ぶれいおん未来ミーティング」※2	よつ葉アリーナ	60	5
		7.11	理事会	ぶ	9	0
		8.29	ブロック役員会	ぶ	7	0

合計(名) 5,911 770

《表彰》

○森と人を育てるコンクール木育部門最優秀賞 主催：北海道他実行委員会主催（2025.1月）

《連携・協力》

- 帯広の森・はぐくむ：あしあとの森、森のこどもらんど、プレイセンターにじっこ、他
- 帯広市都市環境部環境室みどりの課：森づくり協議会、森のこどもらんど
- 「帯広の森50周年シンポジウム」事例発表／主催：帯広市
- 帯広市市民福祉部子育て支援課：ファミリーサポートセンター事業受託運営、保育事業者向けファミサポ説明会、「コノコト」他配布依頼、他
- 帯広市教育委員会：ひろびろチョイス伴走型相談支援事業、調理体験事業受託、「主幹教諭研修会」参加
- 芽室町教育委員会：舞台公演企画協力
- こどもと大人の対話ワークショップ／主催：めむろ町民活動支援センター
- 「家庭教育支援者資質向上研修」事例発表／主催：十勝教育局（2024.10月）
- 帯広南商業高校：「子育て支援について」視察受け入れ（2024.10月）
- 帯広市議会実地調査「帯広ファミリーサポートセンターの現状と課題」／帯広市議会厚生委員会（2024.11月）
- 札幌市中島児童会館・人形劇場こぐま座：資料室情報誌「MA・SO・BO通信1・2月号」寄稿、他
- こども環境学会アドバイザー養成講座「こども参画」講師／主催：こども環境学会（2025.3月）
- 札幌学院大学「ボランティアマネジメント」講師（2025.7月）

《参画》

- 帯広市青少年問題審議会（委員：羽賀）
- 帯広市民文化ホール運営審議会（委員：山本）
- こども環境学会（こども環境アドバイザー：今村）
- 芽室町文化芸術鑑賞会検討委員会（委員：今村）
- 帯広市パークミーティング緑ヶ丘（委員：今村）
- 帯広の森50周年記念事業実行委員会（委員：今村）
- 帯広市健康生活支援審議会児童育成部門（委員：羽賀）
- 十勝子どもの居場所・学びネットワーク協議会 輪へむ
- めむろ子どもと人形劇を楽しむ会（芽室ブロック）

《研修》

- ハラスメント防止・対応実践ゼミ(全3回)／主催：NPOサポートセンター（2024.8～10月）
- ファミサポ全国交流会／主催：女性労働協会（2024.10月）
- 帯広市子育て支援センターあじさい視察研修（2024.11月）
- ペアレントメンター養成講座／主催：芽室町子育て支援課（2025.6月）
- 帯広市子育て支援センター担当者との情報交換会（2025.7月）
- 児童虐待と社会的養護／主催：女性労働協会（2025.7月）

生活文化体験事業 あそぶ・体験する

学齢期以降の学びの土台は、幼児期からの自発的なあそびに大きく影響を受けると考えられています。外遊びによって、「視力」「運動能力」「言葉の力」が育まれること、また、社会性や自制心、目標を達成する実行力、挑戦力などの「非認知能力」の向上など、あそびは、子どもたちの生きる力を育むために欠かすことのできない時間です。

あそび×森づくり×多世代コミュニティ あしあとの森

協力：帯広の森・はぐく一む
※帯広市緑の募金緑化活動助成



目的 子どもと一緒に森づくり。大人も楽しい森の居場所づくりを広げていこう！

対象 森を楽しみたい方どなたでも

よかったこと

基本スタンスは自由な時間・活動だが、森の作業も楽しめるようになってきている。今期は新しい空間の開拓にも着手し、今後の展開が楽しみである。少しずつではあるが、新規参加者も増えてきている

これから

これからも参加者のペースで楽しんでもらえる活動にする。開拓中の空間、周遊する通路づくりと保持、笹の葉との攻防戦等、やることは尽きない見込み



●はぐく一むさんの協力のもと、無理のない、身の丈にあった活動を心がけていきたいです。活動の雰囲気はとても良くなってきているので、安全に配慮しながら、今後も長く続く活動にしていきたいです。

部長 嶋野丈治



今日は森の日！森であそぼう！ 森のこどもらんど

※帯広南商業高校生徒会
令和6年度「地域還元金」

協力：帯広の森・はぐく一む
※帯広市緑の募金緑化活動助成



目的 森のあそび体験、ふれいおんのPR、会員(ブロック)の交流

対象 会員及び、広く一般市民

よかったこと

今期は星槎国際高校の他、帯広南商業高校にもご協力をいただき、各ブースで高校生の活躍があった。また、新しい連携として帯広市みどりの課によるブース出展があり、ふれいおんの森の活動に関心をもってもらえる機会になった

これから

来年は20周年の記念開催。参画の輪を非会員にも広げるなど、より地域に開かれたイベントにしていきたい。運営の基盤として関わる各ブロックは、メンバー構成や会員の状況が異なり、必ずしも協力体制が得られるとは限らない。義務感や負担感なく会員交流の場となるように対話を大切に進めていきたい。



●参加者から「毎年楽しみにしてます」とお声かけいただけるようになり、森のイベントとして定着してきた感じはありますが、「ふれいおん主催」という認識はまだまだ浸透していないようです。ふれいおんのPR活動としての工夫も意識しつつ、会員みなさんと共に大事にしていきたい活動です♪

実行委員長 久保美香



若者が創り出す！高学年キャンプ・小学1年生からのお泊り会など あそび屋かるチャー



目的 子どもと大人が関わり合い、楽しさを創造する。楽しさを共有し仲間意識を育むことで居場所を作る。

対象 小学生以上

よかったこと

高学年キャンプでは、実行委員長を中心に今年初参加の若手の青年たちが企画を創り上げた。キャンプをみんなで創るという雰囲気が今まで以上に高まっているようだった。若手青年たちから、キャンプ以外の企画も自分たちで取り組んでいくという気概が感じられ、今後も大いに期待できる。

これから

遠方からキャンプに関わってくれる青年も増え、嬉しい限りである。離れた地域における会議のもち方、情報共有など協働の在り方については今後も模索していく。



- もうすぐ50回目の高学年キャンプ。大きな節目を迎えようとしているこの企画に、若手青年からは「50回で終わらせる気なんて全然ない」という声。活動を通し、自分たちが大切にしてきた思いもつながっていることを実感しました。今後は自分が中心ではなく、若者たちをどう支えていくかを本気で考えていきたいです。自分自身、新たな立場での関わり方をまだまだ学んでいかなければ。



部長 安宅央喜（あだ名:ガミ）

“やってみたい”にチャレンジ 子ども参画



カフェスペース

目的 子どもの「やりたい」を実現するためのサポートをする。

対象 小学校高学年以上

よかったこと

子どもたちが企画に携わり、一緒に活動を創り上げることができた。子どもたちからの「やりたい」という声が増えたことや、高校を卒業した子どもたちが企画者側として多く携わっていることから、子どもたちの中の当事者意識や仲間意識が高まってきていると感じる。

これから

イベント周知の際には子どもの関わりも伝え、子ども参画の輪を広げていきたい。



春合宿

- 子ども参画は「子どもたちだけで」何かをすることではなく、「子どもも含めて皆で力を合わせて」何かをすることだと思う。そのため、子どもたちのみならず、我々大人も子どもの権利や対等な関わり合いについて学ぶ機会が必要です。また、子どもの当事者意識は、子どもに関わる全ての活動で育まれるもの。子ども参画は独立する一事業ではなく、子どもの成長段階に合わせて、みんなで取り組んでいくものであるということを会全体で共有していきたいです。

担当 安宅央喜（あだ名:ガミ）

- 初めて実行委員長として企画をして、うまく進まないこともあったけど無事？終わって良かったです！また、参加者にも楽しんでもらえて嬉しかったです！次の実行委員長はYちゃんかな…？あと、当日は予想外のことがありとても疲れしました(笑)。いちみる(元実行委員長)の気持ちがよくわかりました！

春合宿企画 青木葵子さん/中2（あだ名:しば）



子育て支援事業 みんなで子育て

「子どもをひとり育てるには、村一つ必要だ」というアフリカの古いことわざがあります。人間の子どもは、親だけでは育たない。網の目のように張り巡らされた、人と人とのつながりの中で育ち合う存在だという例えです。妊娠・出産期から、孤立せず、支え合い助け合える安心できる子育てのネットワークづくりに取り組んでいます。

あそび×親の学び合い×協働運営
プレイセンターにじっこ

Home Souken
株式会社 ホーム創建

公益財団法人
キリン福祉財団

目的 「家族と一緒に成長する」という理念のもと、「あそび」「親のための学び合い」「協働運営」を3本柱にした、親たちによる乳幼児教育と親の生涯学習の場

対象 未就学児の親子 ※参加メンバー22組（2025年8月現在）

よかったこと

- ・新たに入会してくれた人たちから、「親も子ども安心して遊べる居場所に出会えてよかった」「親がやらせたいことをさせるのではなく、子ども視点で遊ばせる大切さに気づけた」などの声があった。
- ・スタッフ体制が安定的に継続できている。卒業メンバーがスーパーバイザー資格を取得した。

これから

- ・新規入会者へのオリエンテーションの徹底ができていない。来期はスタッフ会議(月1)で確認する。
- ・にじっこ卒業後の親子、平日働き始めたメンバーも参加できるように、あそびと学び合いの機会や継続的なつながりが必要。来期から月に一度土曜日に、にじっこ卒業メンバーたちで作る親子の遊び場を立ち上げたい。
- ・活動継続のための財源確保（行政や企業からのサポート等）

参加者の声を
たくさん！



R6年度にじっこ報告書

参加メンバーの声

入会前、双子が1歳9ヶ月、お腹に8ヶ月の赤ちゃんがいる状況。育休中の家にいられる時間を大事に過ごしたいと思いつつ、今の関わりが子どもたちの成長につながっているか不安でした。にじっこでは同年代の子どもたちや、親との関わりがあり、粘土遊びや絵の具遊び、森でのお散歩など魅力的なことばかりで、期待と緊張感いっぱいに入会しました。入会後は徐々に他のお友達と遊べるようになったり、お友達の真似をして遊ぶようになったり、著しい成長が見られました。私自身も、育児の悩みなどいろんな方とお話させていただき毎度救われ楽しい時間を過ごしています。にじっこで過ごす時間、出会った方々、全てが大切で、この環境なしでは育児を楽しいと思えなかったかもしれません。気軽に参加でき、親も子ども居心地の良いにじっこをもっともっと知ってほしいです！

(Mちゃん/双子2歳と0歳児のママ)



- にじっこに出会ってくれてありがとう！「子が赤ちゃんの時は孤独だったけど、今はにじっこで仲間と子育てできてるから孤独はない」という言葉を聞くと嬉しくなります。子育てに正解はないし、終わりもない（ように思える）。経験を分かち合いながら、あーでもないこーでもない、これでいっかな、と悩みつつ、一緒にやっていきましょう！まだ出会っていない皆さんとの新しい出会いも楽しみにしています。Families growing together!

部長/スーパーバイザー 宮田真理子



※スーパーバイザー 日本プレイセンター協会認定。活動を見守り、“みんなで子育て”を支えています。

産前産後の親の学びのひろば
産前産後のサンサン広場

公益財団法人
キリン福祉財団

目的 妊婦さんやパートナー、乳幼児の親が安心して子育てできる
ように、子育ての大切なことを学ぶ場

対象 妊婦さんとパートナー、0歳児の親子

よかったこと

- ・スタッフが増えたことで思いや意見を話し合うことができた
- ・助産師さんのテーマに沿ったお話と、直接相談できる時間が大変喜ばれており、継続参加につながっている。
- ・継続参加につながらない場合にも、ふれいおんを知ってもらう機会になっている
- ・スタッフも学びの機会を増やし、少しずつスキルアップしている。参加者の不安に寄り添い、丁寧な言葉かけができるようになっている



これから

妊婦さんやパートナーに興味関心を持ってもらえるようなテーマづくりや、専門家を招くための財源の確保



- はじめての育児は分からないことばかり。スマホも良いけど、直接顔を見ながら生の声を聴いて、自分に合う育児方法を見つけて欲しいと思います。子どもにどう育てて欲しいか、どんな子育てをするか、身近な地域の中でいろいろな人に助けてもらいながら、育児に慣れ、学んで成長していけるような場所が必要です。参加をお待ちしています。

わたなべ母乳相談室 渡部麻友子助産師
(毎月サポートいただいています)

- 生まれてから12か月間は、子どもの成長・発達にとっても大切な時期です。子育てを楽しむ力を育むためには学びが大切。ネットやSNSで調べるだけでなく、人と人、言葉を伝え合いながら知ってもらいたいです。子育てを母親だけでなく、パートナーや地域のみんで担い、育ち合えるように工夫してすすめていきたいです。



スタッフ 能登綾香・山本あゆみ

市民同士の子育て支え合いのしくみ

帯広ファミリーサポートセンター

※帯広市委託事業

目的 帯広市の子育て支援事業を受託運営することで、地域における育児の相互援助活動を推進し、「みんなで子育て」の地域環境づくりに寄与する。

対象 帯広市民、会員登録制

よかったこと

子育て支援課による保育者向けの事業説明会や広報協力もあり、ファミサポの認知度がようやく上がってきている。ファミサポを入りにサンサン広場、にじっこや舞台鑑賞、土曜開放など、ふれいおん事業へも広がっている。



これから

登録の提供会員数は順調に増えているが、自宅での預かりや送迎ができない方、仕事をしている方も多く、同じ会員に依頼が偏ってしまう傾向がある。提供会員の少ない地域にはエリアの広報紙に広告を出すなど、広報にも力を入れたい。

また、様々な理由で支援の必要な家庭も多いが、プロではない市民に子どもを預けるハードルが上がっている様子もみられる。子育ては親が抱え込まずに地域のみんで、意識の醸成も大きな課題の一つと感じている。

- スタッフがシフト制で業務にあたっているため、引継ぎや共有すべき事案が多い中、様々なツールを使うなど日々工夫をして事業にあたっています。家庭の状況や親の意識が多様に変化している今、親の求める支援に応じるにとどまらず、子どもにとってよりよい成育環境づくりのために、ファミサポにできることを帯広市のチームの一員として考えていきたいです。

アドバイザー 羽賀陽子

※会員数 829人 (対前年+11人)、援助活動件数 1,802件 (対前年 - 365件)

2025年3月末現在



ファミサポスタッフ

芸術文化体験事業 鑑賞・アート・表現

子どもの権利条約（第31条）では、「休息や余暇」のほか、「子どもが年齢に適した遊びやレクリエーションの活動を行うこと、文化的な生活および芸術に自由に参加する権利」を認め、これらの活動に参加する権利を尊重または促進し、平等な機会の提供を奨励しています。子どもたちの日常生活になくはない固有の権利が守られるように、創意工夫して取り組んでいます。

わくわくドキドキの舞台を届ける 鑑賞企画部

目的 子どもの五感を刺激し、感性を豊かに育むために、質の高い優れた生の舞台に触れる機会をつくること。

対象 幼児～大人

よかったこと

チケット販売の伸び悩みなど様々な試練を抱えながらも、2公演を実現し、子どもたちに心躍る体験を届けられたこと。

これから

- ・会員の中からファンを増やす丁寧な取り組みが必要。
- ・十勝管内、北海道内で協働のネットワークを広げる。
- ・持続可能な体制をつくるため、鑑賞企画の流れをノートに記録して部員で共有する。



人形劇団野良犬プラス
「おかえし」「おむすびころりん」

参加者の声

・一人で動かしてたからどうやってやったのか気になりました。また見たいな。またきてね。(小2)／人形劇団野良犬プラス公演

・子どもたちが惹き込まれていく姿はゲーム等とは違い、ライブの良さに改めて感動した。／コマのたけちゃんのあそぶあそび！

- 鑑賞の意義や魅力を知る人が減少傾向にあり、優れた舞台作品を招へい、鑑賞する活動は危機に瀕している。忙しい日常の中でも、子どもたちに心躍る鑑賞体験を届け、子どもの文化を大切に継承していきたい。

部長 今村江穂



「コマのたけちゃんのあそぶあそび！」

アート・表現を楽しもう りとりびーんず

目的 幼児期にアートや文化体験を通して自分を表現することを知る【時間・空間・仲間】の場づくり

対象 幼児～大人

よかったこと

普段触れることのないアートや文化を体験することや、仲間と刺激しあうことで子ども同士の小さな気付きもあったことは嬉しい。

課題 りとりびーんずがどんな場なのかがきちんと理解されていないことや担い手不足。

- アートや文化体験は子どもへの贈り物。家ではなかなかできないダイナミックな遊びや、世界の文化体験など、五感が育つ幼児期に触れさせたいと願っていたが、十分に体制を整えられなかったため来期は休止となりました。



部長 山本あゆみ

「お茶会」

図書を通じた文化交流 図書部

目的 本を介して人がつながること、本にまつわる情報を発信することを通じて身近な芸術・文化に触れる場をつくる。

対象 乳幼児～大人

よかったこと

本の交流会「本deもち」では過去一番の参加者数で子どもが本を紹介する場面もあり、多世代で交流した。毎月の部会の一端では詩を読む会を行ったり、「かがり火」も発行できたので広報に活用したい。

これから

本を介して多世代がつながることを目的として、多世代の会員が気楽に本の話ができる場をもっと作りたい。「かがり火」制作も次年度はより広報に活用できるように内容を充実させていきたい。

- 本好きに悪い人はいません(笑)。本の話がしたくなったら図書部へどうぞ。

部長 青木景子



「本deもち」

地域ネットワークづくり事業 育ちあう

子どもも親も安心できる人と人とのつながりの中で、共感力を養い、学び育ち合える場をつくっています。子育て中の親が、不安を抱え孤立することがないように、点から線へ、やがて子育てがしやすい街へと成長していくことを願いながら、できるところから取り組んでいます。



2024年度WAM助成
活動報告書

土曜地域開放みんなの居場所 あそび場しゃべり場

※WAM助成事業(2024年度/2025年度)



目的 異年齢多世代の自由なあそびや交流を通じ「みんなで子育て」の場づくり

対象 乳幼児～大人 会員／非会員どなたでも

よかったこと 会員の紹介やチラシを広く配布した効果か、毎月初参加があり、年間で20組が新規来所。ふれいおんが気になっていたという方も多い。初めて会う子ども同士で遊びだす様子もみられ、異年齢交流の場所にもなっている。8月の夏まつり会は4年目となり、町内会との連携や企画、準備もスムーズに分担でき、多くのお手伝いもいただき良い規模で開催できている。

これから

非会員親子の継続参加は少なく、人との関わり合いや居場所を求めるというより一時的なあそび場としての利用も多い。幼児と小中高校生との関わり場の場としての価値も広めていきたい。夏まつり会をベースに、地域とのつながりを広げられる行事も検討したい。



- 多様な人たちが出入りして、様々な関わり方をする場になっています。人と空間、時間はあっても企画は特にならない居場所での遊び方に慣れた子どもたちは、たくましく遊びを広げています。大人が手仕事をしていると、「なにそれ？」と制作の輪に加わったり、「自分のしたいことをは自分で決める」場にもなっています。 **スタッフ 久保恵、羽賀陽子**



平日の小学生～高校生の居場所 アトリエスペース

※WAM助成事業(2024年度/2025年度)

※帯広市委託事業（保護者相談／体験事業）



目的 登校に困難さを抱える子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり

対象 小学生～高校生

よかったこと 必要な方に情報を届け、参加のきっかけになるようSNS発信を意識した。帯広市ひろびろチョイス委託事業の他、チョイスに関わる民間団体による連携会議を主催し、ネットワーク強化が前進した。

これから

帯広市教育委員会や関係機関との連携を強化し、定期的に連携会議を開催する。居場所での過ごし方や活動について子どもたちとも確認する場をつくる。

- 最初は玄関に入るのも緊張していた子どもが少しずつ解れていき、一緒に来た保護者の強張りもずっと消えていく様子を目にします。ふれいおんの「ナナメの関係」の心地良さと開放感がもたらす光景だと確信しています。

スタッフ 久保恵、久保美香



夕方からの子どもたちの居場所 よるスペース

※WAM助成事業（2024年度/2025年度）



目的 ゆるやかにつながり、居場所だと感じられる場づくり

対象 小学5年生以上

よかったこと 会員とつながりのある非会員も継続的に参加してくれるようになり、会員非会員ともに交流が広がっている。定期的に集まり顔を合わせることが仲間意識の醸成につながっている。

これから

帯広市外からの参加者のために、時々場所は変えてやってみたい。



- よるスペース参加者も多くがスマホを持っていて、それをいじる機会も多い現状。でも、いざボードゲームやカードゲームが始まるとスマホを置いてみんなで楽しめる。まだまだスマホに負けていない。仲間は偉大だ。

部長 安宅央喜（あだ名:ガミ）

ぶれいおん版ご近所づきあい ブロック活動

「ご近所づきあい」が消失傾向にある中、子どもが日々生活する一番身近な地域を意識して、多様な人たちが面倒なことも面白がって担い合えるような生活文化体験や、関わり合いができる場づくり。ゆっくりと時間をかけて築かれていく安心できるつながり・人間関係の中で、子どもも大人も一緒に育ち合う喜びを分かち合える、そんなコミュニティを目指しています。

目的 身近な地域の子ども、子育ての安心できるコミュニティづくり

よかったこと

情報共有の難しさや、担い手不足など様々な課題はあるが、会員交流を継続できた。ぶれいおん施設の環境整備の当番、森のこどもらんどへの協力など各ブロックで工夫しながら担うことができた。

これから

- ・ブロック内のコミュニケーションが難しくなっている。LINEだけに頼るのではなく、少しでも顔の見える関係づくりを工夫する。
- ・ブロック会の開催について、回数や内容を調整したり、「聴きあう会」を活用するなど、柔軟な運営を検討していく。

- 顔をあわせる度に心の距離が縮まります。皆で食事をする、作り物をする、誰かと一緒に過ごしていると「自分にできることは何かな？」と考えたり、「これは誰が準備してくれたのかな？ありがたいなあ～」と感謝の気持ちが湧いてきます。ぶれいおんで生まれたご縁をおもしろがり、深まっていくつながりを味わえる時間として、大事にしていきたい活動です。

担当 久保美香

北ブロック

小さな子どもたちも多く、いつもワイワイ賑やかな北ブロック。集まれば異年齢の関わりが自然に生まれ、最後は皆ワチャワチャ汗だく…そうして距離感が縮まっていく様子を微笑ましく眺めている大人。新入会の方も多く、ぜひ多世代ごちゃまぜ感を味わってほしい、色々な方と話せる場にしたい…そんな思いで、期の後半は月イチの開催を目指しました。それぞれが忙しく、定期開催ができていないのが悩みではありますが、「楽しみたい」気持ちを持った方がたくさんいるので今後も「こどもらんど」や「鑑賞のお当番」など子どもから大人まで皆で面白がれる北ブロックであります♪

ブロック長 久保美香



南ブロック

月に一度の各担当の企画のもと、ハロウィンやクリスマスなどの季節イベント、みんなで料理を作ってお喋りしながらの交流のほか、雪、川、体育館など自然に触れ合い体を動かし、みんなで普段できない体験と遊びを楽しみました。こまのたけちゃん公演ではお当番をさせていただき、中国ゴマや血回しの練習でこどもだけではなく大人も熱中していたのが良い思い出です。不慣れな中、役員だけではなく、ブロック全体で役割を分担、サポートしていただきとてもありがたかったです。来期も、一人ひとりの負担を減らし、みんなで楽しめるブロックでありたいと思います。

ブロック役員 阿部早希（あだ名:ハムテル）



西ブロック

皆様こんにちは！少人数ながら結束力の強い西ブロックです。昨年は若いメンバーも加わり、平均年齢もかなり若返りました。活動は現状維持がモットーで、お正月の一品持ち寄りパーティー、夏の焼肉会はずっと続いている行事です。ブロック会の開催日数は少なくなりましたが、その分ラインやFAXで連絡は密に行うようになりました。3歳から〇〇歳までと年齢層も幅広く、互いに良い影響を受けているように思います。こんな関係がいつまでも続きますようお願いしています。



ブロック役員 北村和子・澁谷裕子



芽室ブロック

木工教室やモルック、進級お祝い会やピザ作りなど、子どもから大人まで一緒に楽しめるブロック会を開催することが出来ました。いろいろな内容を企画することは少し大変な面はありますが、いつもみんな協力的で、だれか1人だけが頑張らなくても当日は「あうん」の呼吸で準備から片付けまで進んでいきます。長年ブロック活動をしてきたつながりがあるからこそだなあとしみじみ嬉しくなります。多世代で集い、食事やデザートを作ったり、遊んだり、学んだり、そんな時間を大切にしていきたいです。



ブロック長 市川奈津子

みどりブロック

久しぶりの人形劇のお当番に試行錯誤で準備を進めたみどりブロックでしたが、やはりみんなで協力して何かに取り組むと絆が深まるものですね。看板作りや当日運営には普段会えないメンバーも参加して良い思い出となりました。集まれる機会は減りましたが、月に一度は「まんまる」仕分けや配布に合わせてお互いの顔が見られたら元気が出ます。話し合いが必要な時もそうでない時も、ふれいおんや緑西コミセンに集まって、LINEだけでは伝わらないお互いの想いも美味しいお菓子やお鍋を囲むと伝わります。来期も変わらず色々な世代との交流を図っていききたいです。



ブロック長 阿部茜

青年ブロック

皆さんお疲れさまです。今年は去年からブラッシュアップした中高生の宿舎企画が本格的になったり、高学年キャンプも長らく主体だったガミやシャベルが離脱し一気に青年も若返りました。自分達の世代、その少し下の世代、さらにその下の世代が躍動した一年だったと感じます。高学年キャンプは48回目。50回に向けて節目が見えてきましたがまだまだ通過点。そう思わせるくらい将来性があり、そういう意味ではわくわくする年になりました。

ブロック長 楠村岳史（あだ名:なめこ）



会員交流

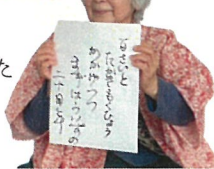
第33回 百人一首大会

老若男女が集い、賑やかで楽しい会でした。運営したWITHメンバーも、豚汁作りや景品準備等の裏方から選手まで大活躍。得意のおしゃべりと笑顔も満開でした。



式部からバトンをつなぐ薦重へ
大河は流る ふれいおんまた

命ある限り実行委員長
中尾悦子



冬・春・夏の寺子屋



今期から個人学習やあそびに加え、みんなで同じテーマを考える時間や炊飯も取り入れました。小学生の他、中高大生や青年の参加も多くあり、異年齢で交流を深めたり、他事業のお泊まり会への参加につながったりしました。非会員のお試し参加も検討しつつ、これからも楽しく学び、交流を深められる企画を考えていきたいと思います。

部長 安宅翔子



ごちゃまぜスポーツ

毎月1回、小学校の体育館開放を利用し、夕方から夜の時間にかけて、小学5年生～中学生を中心に楽しみました。タイミングが合えば青年や高校生も参加してくれたり、大人のひとり参加もありました。ごちゃまぜのよいところは普段あまり接点のない会員同士も、スポーツを通して構えることなく交流できるところと、スポーツに飽きたら勝手に遊びを考えてみんなでやり始める自由さです。みんな自然と笑顔になり交流を楽しんでいました。

部長 青木景子



広報誌発行事業 伝える

目的 「子育てに必要で大切なこと」の伝承

対象 十勝管内の妊婦とパートナー、乳幼児の親

よかったこと

「森のおさんぽ研究会」「20条小児科内科クリニック」の寄稿により、内容が充実し、配布先も広がった。

これから

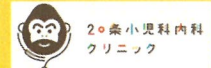
編集委員体制や財源不足などの課題はあるが、伝えたいことは創刊時から変わらずあるので、引き続き地域の皆さんの協力をいただきながら継続したい。

- 紙媒体には、SNS発信とは違った役割があります。子育て情報が膨大に溢れる中、「コノコト」の発信に何が求められているのか。皆さんの声もぜひお寄せください。

部長 嶋野奈津美



コノコト
バックナンバー



自主企画・会員サークルなど

ふれいおんでは、会員同士でいつでも仲間を集め、趣味や興味のあることを通して交流・リフレッシュすることができます。あそび・スポーツ・音楽など、気軽につながり合える場所として多彩な活動が展開されています。

※一部ご紹介します。他にもパパたちのコミュニティ、ヨガ、親の学びの会、生き物くらぶなどの活動があります。

サポートサロンWITH

今年度もカレーや豚汁を提供し皆さんの「美味しい」に大満足のWITH。春は恒例になりつつある春風亭一花落語会を開催。60名近くのお客さまとの楽しいひととき。WITHも結成20周年を迎えます。みんなそれぞれ不調な部分も抱えつつも、集えば笑顔で次のお楽しみを見つけていくパワーは衰えていませ

ん。さて来年度はどんなことができるのか、みんなで話していきたいです。

田中幸枝



うたの会

うたの会は月に一度の集まりです。あたたかい季節は公園でのびのびと、寒くなったら室内でゆったりと、ただただ歌ってごきげんに活動しています。歌うのは主に日本の童謡やわらべうた、世界の民謡など、こどもの歌をベースに四季に合わせて楽しんでいます。

きっとあなたのお気に入りの曲も見つかるはず！

深澤芽衣



らんらん

大人が学ぶ・楽しむがコンセプト♪大人だけの時間があったり、親子一緒に時間があったり。写真は子どもたちの成長を感じながら、おしゃべりを楽しんでいるママたち。不定期開催で会員さんに周知できていないことが反省ですが、会員同士のつながりを大切にしたいなあと思っています。気になる方は声をかけてくださいね。ゆる〜く活動しています。

久保美香



にじいろおはなし会

「大人も子どもも自分や相手を大切にできるようになってほしい」という思いから、性のおはなし会を6回開催。クイズやゲームを通して楽しく性のことを学んだり、普段のお悩みを交流したりすることで「性」「生」について考えを深めることができました。これからも安心して学び、対話ができる場をつくっていききたいと思っています。

安宅翔子



あそびの卓球部

毎週水曜日、NP(年配) WT(若手) そしてその子どもたちが集まり、ワイワイ楽しく卓球をしています。最近成長著しいのは子どもたちで、ラリーも少し続くようになってきました。みんなが揃うことはなかなか難しいですが、当日に参加できたメンバーで楽しく盛り上がっている卓球部です。

澁谷裕子



小学生～高校生の勉強会

小中学校の先生を目指しているのので、様々な学年の子に勉強を教える体験がたくて参加しました。実際自分の知識が通じないことがあり、漢字の意味を聞かれた時、小学生でも分かる言葉を考える事が一番難しかったです。またこのような機会があれば参加したいです。

高校生有志



第 20 期 決算報告

第20期活動計算書

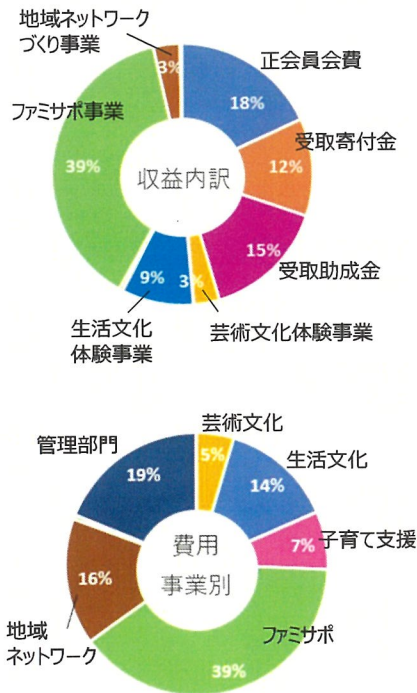
自2024年9月1日 至2025年8月31日 (単位:円)

科目		細目	20期決算金額	前年比	
経常収益	【受取会費】	正会員受取会費	2,972,600	102%	会員世帯数148 (家族105、個人43)
	【受取寄付金】	賛助会費、その他寄付金	1,975,136	91%	賛助会員数112 (個人83、法人29)
	【受取助成金等】	受取助成金	2,502,348	246%	企業・個人・高校大口寄付、寄付切手等
	【事業収益】	芸術文化体験事業	524,496	68%	プレイセンター事業、居場所づくり事業、組織基盤等に助成を受けました
		生活文化体験事業	1,466,200	117%	
		子育て支援事業	78,000	184%	
		ファミリーサポートセンター事業	6,287,259	111%	
		地域ネットワークづくり事業	542,989	89%	
	【その他収益】	雑収益	34,929	48%	
	経常収益 計		16,383,957	113%	講演会参加費収入により増
経常費用	【事業費】	人件費	6,445,110	106%	助成金事業(居場所づくり等)により増
		諸謝金	1,347,000	142%	
		印刷製本費	517,505	74%	
		旅費交通費	1,038,195	99%	
		通信費	465,967	113%	
		備品消耗品費	438,193	160%	キルトラグ、タープ、Wifi機器等
		地代家賃	648,000	100%	
		水道光熱費	300,316	87%	
		保険料	380,991	107%	NPO法人子育てひろば全国連絡協議会、NPO法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワークに新規加入
		諸会費	83,000	133%	
		イベント諸経費	530,796	65%	
		その他経費	245,928	48%	
	事業費 計		12,441,001	101%	役員報酬 360,000
	【管理費】	人件費	2,015,465	122%	管理業務引継ぎによる増
		その他経費	862,535	164%	組織基盤助成金により研修費増
	管理費 計		2,878,000	88%	
	経常費用 計		15,319,001	99%	
当期正味財産増減額			1,064,956	法人、個人、高校からの大口単発寄付や、事務局給料に支出できる組織基盤助成金(単年度)により大幅収支増になっています	
前期繰越正味財産額			2,257,965		
次期繰越正味財産額			3,322,921		

貸借対照表

2025年8月31日 現在 (単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
現金・預金 計	4,992,971	前受金	1,799,617
貯蔵品	42,307	預り金	82,146
前払費用	60,000	流動負債 計	1,881,763
流動資産 計	5,095,278	負債合計	1,881,763
【固定資産】		正味財産の部	
什器備品	49,406	【正味財産】	
敷金	60,000	前期繰越正味財産額	2,257,965
固定資産 計	109,406	当期正味財産増減額	1,064,956
		正味財産 計	3,322,921
		正味財産合計	3,322,921
資産合計	5,204,684	負債及び正味財産合計	5,204,684



西暦	主なできごと	期	会員世帯数
1972	十勝おやこ劇場準備会発足		
1973	十勝おやこ劇場活動開始		
1984	〃 分割決議（会員数約1,700人-帯広西、帯広東、音更に3分割）		
1988	11.3 帯広西おやこ劇場 発足総会（会員719人/会費700円）＜帯広市西17条南3丁目1-30＞		
1995	9.25 事務所移転 ＜帯広市西13条南11丁目3-2＞ /月会費1,000円/人		
2005	4月 中高生の居場所「かるちゃーくらぶ」、緑丘小にて放課後の居場所づくり「あそびの宅Q便」開始 （文科省子どもの居場所づくり 地域子ども教室推進事業）		
2006	4.9 法人設立総会 5月季刊広報誌「ぶれいおんたいむ」創刊 7.7 登記完了～NPO法人ぶれいおんとかち発足 10.23 事務所移転＜帯広市西20条南5丁目18-2＞	1 2	152
2007	1月より新「1.2.3ひろば」開始 12月より月会費値上げ（シングル1,200円、ファミリー2,200円）	3	150
2008	5月より「あそびの宅Q便」明和小編スタート（帯広市子どもの居場所づくり事業） 7月より外あそびのひろば「はらっぱくらぶ」開始		141
2009	3.14 十勝おやこ劇場協議会閉会公演「100万回生きたねこ」（劇団たんぽぽ） 6月「ぶれいおんたいむ」カラー化（帯広市市民協働のまちづくり支援事業）	4	132 126
2011	11月 入会金（シングル500円、ファミリー1,000円）廃止	7	
2012	5.20 40周年プレ企画こどもらんど「39mピザをつくろう！」		135
2013	4.21 40周年記念レセプション&記念公演「おまえうまそうだな/ねずみのすもう」（人形劇団むすび座） 7.1 帯広市よりファミリーサポートセンター事業受託、9月より事業開始 3月～8月 40周年記念壁画プロジェクト「ぼくらはみんなアーティスト」	8	146
2014	4月 サポーター会費改定 個人5,000円→3,000円/年、優待券廃止 11月「多世代コミュニティSUN cafe」（生命保険協会助成事業）～2015.8月まで全10回開催	9 10	148
2016	3.27 法人化10周年記念レセプション 8.28 法人化10周年記念公演「ピノキオ」（人形劇団むすび座）	11	136
2017	10月 ワンテーマ情報誌「コノコト」創刊 11月よりシングル会員要件変更（未就学児まで無料登録可） 12月 こどもミーティング（のち、子供連合協議会CU、子ども参画）開始	13	134
2018	4月 帯広の森内「あしあとの森」事業開始/帯広の森 森づくり団体加入 6月 「プレイセンターにじっこ」開始（帯広市市民協働のまちづくり支援事業） 7.26 認定NPO法人認可（2023年更新） 12月 北海道より「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」受賞	14	139
2019	5月 「森のこどもらんど」帯広の森・はぐくむにて初開催 7月 ファンドレイジング部発足 12月 非営利組織の第3者組織評価（グッドガバナンス認証）ベーシック評価基準クリア	15	136
2020	1月 土曜地域開放開始 4月 「プレイセンターにじっこ」WAM助成事業（R2～R3年度） 11月 内閣府【子どもと家族・若者応援団「子育て・家族支援部門」内閣府特命担当大臣表彰】受賞 12月 非営利組織評価【グッドガバナンス認証】取得（2024年更新） 12月 幼児の家族会員新設1,100円/月、及び非課税世帯半額制度開始	16	140
2021	9月 「赤ちゃんの日」開始（ドコモ市民活動団体助成事業）	17	149
2022	1月 組織・運営改革検討委員会「持つ会」設置 4月 十勝管外在住の会員、会費半額制度開始 8月 町内会共催「こども夏まつり会」初開催		154
2023	1月 組織・運営改革検討委員会「持つ会」提言書を作成し、解散 4月 「アトリエスペース」開始（キリン福祉財団「キリン・地域のちから応援事業」） 6月 全国森林レクリエーション協会「地域美しの森づくり活動コンクール」特別奨励賞受賞 11月 創立50周年記念レセプション・記念公演「あなたがうまれるまで」（くわえぱっと&ひつじのカンパニー）	18 19	143
2024	1月 臨時総会にて運営委員会と理事会を一本化、新体制（理事会&聴き合う会）が発足 4月 「よるスペース」開始（WAM助成事業） 6月 子ども環境学会活動賞「創立50周年子どもも親も遊んで育つまちづくり」		144
2025	1月 北海道他実行委員会主催「森と人を育てるコンクール木育部門」最優秀賞	20	148

主なメディア記録



帯広市の都市公園「帯広の森」の50周年を記念し、今後の帯広の森のあり方について考える記念シンポジウム（実行委など主催）が20日、市内のなかちがで開かれた。帯広の森の未来についてパネルディスカッションが行われ、帯広の森の活用について意見を交わしたパネルディスカッション（加藤啓明撮影）

帯広の森 未来を考える

市内で50周年シンポジウム

帯広市の都市公園「帯広の森」の50周年を記念し、今後の帯広の森のあり方について考える記念シンポジウム（実行委など主催）が20日、市内のなかちがで開かれた。帯広の森の未来についてパネルディスカッションが行われ、帯広の森の活用について意見を交わしたパネルディスカッション（加藤啓明撮影）

市民ら約100人が耳を傾けた。パネルディスカッションは3人が登壇。認定NPO法人「子どもと文化のひろば ふれいおん」とか「（帯広）の今村江穂理事長は市民と自然との距離について、「森を楽しいと感じる体験をしている大人が減ってきている」と課題を挙げた。公園設計士を行う高野ランドスケープアーキテクト（札幌）の金澤典広代表は、街中を流れる川が生活圏に自然を感じる場所を導く大切さを示した。「人が開く森は、人が生み出す森の形になっていく。森はその土地の文化を映す鏡」と語った。都市環境計画に詳しい

【北海道新聞 2024.9.30掲載】

（杉崎明）



令和6年度 森と人を育てるコンクール 表彰伝達式
「本育活動を行う団体部門」最優秀賞
表彰伝達式の出席者。左から中谷部長、はぐくむの日月伸施設長、今村理事長、嶋野理事、久保恵さん、高橋参事

ふれいおんに最優秀賞

24年度「森と人を育てるコン」 本育や森づくりで最優秀賞を受賞した

今年度の「森と人を育てるコンクール」（道庁の「NPO法人子どもと文化のひろば」主催）で、帯広市の

のひろばふれいおん・とかち（今村江穂理事長）が本育活動を行う団体部門で最優秀賞を受賞した。同コンクールは、本育活動を行う団体や地域で適切な森林整備を実践する個人・森林所有者を表彰する。同部門は本育活動を積極的、継続的（5年以上）に実践する団体・企業が対象。同NPOは、1973年設立の十勝おやこ劇場が前身で、2006年に現在の名称で法人化。18年4月に帯広の森の「森づくり活動団体」となり、帯広の森を拠点に本育活動を展開、多世代にわたって「子育て・親育ち」ができる環境づくりに取り組んでいる。未就学児と保護者を対象とした「森さんほのほか」と、自然観察をはじめとする森林環境教育、間伐や枝打ち、草取りなどを含む森づくり体験といった活動も定期的に続け、「森のこもりイベント」などの一般向けイベントも積極展開してきた。23年には全国森林レクリエーション協会の「地域美の森づくり活動コンクール」で特別奨励賞を受賞した。帯広の森ははぐくむで16日に開かれた表彰伝達式には、十勝総合振興局の中谷浩樹産業振興部長、市都市環境部の高橋秀和参事が出席。中谷部長は同NPOの嶋野文治理事長に賞状を手渡した。嶋野理事は「今後とも地域住民のための自然と親むきかけづくりを長く続けていきたい」と話した。（許静）

【十勝毎日新聞 2025.1.19掲載】



事業概要の説明を受け、市民ら約100人が耳を傾けた。パネルディスカッションは3人が登壇。認定NPO法人「子どもと文化のひろば ふれいおん」とか「（帯広）の今村江穂理事長は市民と自然との距離について、「森を楽しいと感じる体験をしている大人が減ってきている」と課題を挙げた。公園設計士を行う高野ランドスケープアーキテクト（札幌）の金澤典広代表は、街中を流れる川が生活圏に自然を感じる場所を導く大切さを示した。「人が開く森は、人が生み出す森の形になっていく。森はその土地の文化を映す鏡」と語った。都市環境計画に詳しい

中央大学研究開発機構（東京）の石川幹子教授は、帯広市内の生物や水系などの分布図「フットマップ」の作成や、地域産業や文化と関連づけた公園造りを提案した。（杉崎明）

ファミサポ運営課題を聞き取り
市議会厚生委員 運営団体と懇談
帯広市議会厚生委員会は、帯広市市民生活委員会（推進委員長）は12日、市民が子どもの預かり保育を有償で行う「帯広ファミリーサポートセンター（ファミサポ）事業」について、委託法人と懇談した。委員7人が、担い手となる会員確保など運営の課題を聞いた。ファミサポ事業は全国の自治体で取り入れ、市は2013年9月に開始。認定

【十勝毎日新聞 2024.11.13掲載】



模範店の収益を子育て支援に
帯広南商高の生徒会が、市内のNPO法人「子どもと文化のひろば ふれいおん」とか「（帯広）の今村江穂理事長は市民と自然との距離について、「森を楽しいと感じる体験をしている大人が減ってきている」と課題を挙げた。公園設計士を行う高野ランドスケープアーキテクト（札幌）の金澤典広代表は、街中を流れる川が生活圏に自然を感じる場所を導く大切さを示した。「人が開く森は、人が生み出す森の形になっていく。森はその土地の文化を映す鏡」と語った。都市環境計画に詳しい

模範店の収益から9万7000円を寄付した。帯広南商高の生徒会が、市内のNPO法人「子どもと文化のひろば ふれいおん」とか「（帯広）の今村江穂理事長は市民と自然との距離について、「森を楽しいと感じる体験をしている大人が減ってきている」と課題を挙げた。公園設計士を行う高野ランドスケープアーキテクト（札幌）の金澤典広代表は、街中を流れる川が生活圏に自然を感じる場所を導く大切さを示した。「人が開く森は、人が生み出す森の形になっていく。森はその土地の文化を映す鏡」と語った。都市環境計画に詳しい

【十勝毎日新聞 2025.3.4掲載】

金魚やヨーヨー 夏まつり楽しむ
ふれいおん× 20条希望町内会
遊びを通じて地域交流を深めることも夏まつりが3日、帯広市内のきょう第二児童公園（西20南5）で開かれた。近隣の親子住民らが手作りブースを回り、多様な体験を楽しんだ。市内NPO法人ふれいおん スクラフ（石邑義幸会長）



金魚をそとすくい上げる子どもと周りの大人たち
や、帯広三条高校と星槎国際高校帯広学習センターの生徒たちが協力した。会場では、ヨーヨー・金魚すくい、高校学園祭から譲り受けた遊具を使った当てるのほかに、紙飛行機飛ばしなど子どもが自主企画したコーナーも登場。さまざまな遊具を運営した帯広啓北小3年の織田圭一さん（9）

は「暑いけど、いろいろな店があつてとても楽しい」と満足げ。友達2人で訪れた帯広明和小6年の小林冬花さん（11）と小川聖唯さん（11）は「金魚も水草も安く買えてよかった」と笑顔を見せた。同法人の羽賀陽子副理事長は「身近な地域の中でふれあいの場をつくり、子ども主体の遊び・体験の場づくりができれば」と話した。（許静）

【十勝毎日新聞 2025.8.4掲載】

ぷれいおん会員の声

集まった声は
こちらからも
ご覧いただけます



会員でよかったと思うことはどんなことですか？

子育てのスタート期から、自分と子どものことを知っている人たちがここに居るという安心感

親族のいないこの土地で、子どもたちも含めて、いつも見守ってくれる皆さんがいてくれることが、何よりのお守りです

大人になってから友人ができた。子どもも学校以外のお友達、見守ってくれる大人、ちょっと年上の子どもがいることで新たな挑戦ができてみたい

子どもたちに、家庭では提供できない遊びの体験をさせられること

転勤で帯広を離れましたが、苦しい時にぷれいおんが家族の心のよりどころになりました。ここは子どもを真ん中に親子が成長する、地域とつながるということを体現している場所。「子どもが真ん中」というのが重要なことで色々探しましたが、そう多くありません。ここは貴重な場所だと思います

ぷれいおんの未来に向けて、変わらないで続いてほしいこと

子どもへのあたたかなまなざし。子どもの人権を尊重していること

子どもたちの遊び体験。キャンプなどにぷれいおん育ちの青年たちが和気あいあいと参加しているのを見ると、我が子たちもいずれこの一員になってほしいと思います

顔と顔が見える関係が困った時、苦しい時の支えになると感じています

会員になってから親として人として育ててもらったなぁと感謝しています。これからも他の会員さんからたくさん学び、少しは自分も誰かの役に立てたらと思います

ゆるやかにつながるというところが無理なく自然体でいいな

たてよこななめのつながりを大切に。年齢ごちゃ混ぜで楽しめる時間と場所は、ずっとずっと続いてほしい

日常生活で安心感を感じられること

大人もあそぶ気持ちを大切にしていること

子育てのこと、リアルなあそびのことを学べたし、子育てに関する社会的な課題について関心をもつようになりました

子どもの声
(小学生～高校生)

ぷれいおんのすきなところはどこですか？

ぷれいおんでしかできない体験がたくさんある

ゆるい感じ

人が優しい

困ってる時は助け合える

大人も子どもも関係なく遊べること

年が関係ないところ、自然がいっぱいなところ

これからやってみたい企画などありますか？

運動会

勉強会

人形劇のブロック担当で受付をしたので今度は司会をやってみたいです

高学年での人間狩り(本気！)

やきいもづくり

こどもおわらいグランプリをやってみたり、ダンス大会もやってみたい

To 第21期 ☆

2025.9～2026.8

《リアルな場づくりをあきらめない！》

どんなにSNSやAIが普及しようとも、ヒトはヒトとの関わり合いの中で学び、成長するということを忘れずに、出会い、関わり、繋がりを合えるリアルな場づくりの維持・存続を目指します。そのために、会員の一人ひとりが活動の意義や魅力を発信し、共感の輪を広げよう。

《学ぼう！子どもの権利》

子どもたちが主体的に考え、失敗を恐れず挑戦できる体験の機会を大切にするため、子どもの権利に関する学びを深めます。

《聴き合う会の充実》

対話をもとに、会員が共感と納得感を持ちながら活動に主体的に参画できる運営を目指します。



企業・団体サポーターの皆さま

あおばクリニック／石橋農場／磯部鉄建(株)／(株)印刷屋ボーダー／エステティック美萌
大和田心療内科／(株)常広公害防止技術センター／常広信用金庫／常広ライオンズクラブ
音楽セラピー樹音／久慈建築工房(有)／栗林建設(株)／(医)慶愛病院／(有)鈴鹿農園／鈴木書店
(株)土屋ファーム／(株)ティーケーコーポレーション／デジタルグラフィックス(株)／東光舗道(株)
20条希望町内会／20条小児科内科クリニック／人形劇団えりっこ／ハウジングオペレーション(株)
(株)ビルテクノス／フォルカヘアデザイン／(株)ホーム創建／(医)北斗／(公財)北海道医療団
みなみ町こどもクリニック／芽室幼稚園／やよい乃湯／横手内科クリニック

2025.8月現在 敬称略

ご寄付のお願い

ぶれいおん・とかちは、北海道より「認定NPO法人」の認定を受けています。

高い公益性と健全な運営・経営体制であるか等の厳しい条件をクリアし、十勝初の認定NPO法人として、2018年7月より認定を受けています(2023年に更新)。認定NPO法人へのご寄付は税制優遇の対象となります。税に関するお問い合わせは所轄税務署へご相談ください。

《ご寄付の方法》

●単発のご寄付 随時受け付けております

遺産・相続財産や、企業のCSR活動の一環による
ご寄付も随時受け付けております。

●個人サポーター 一口 3,000円/年

法人サポーター 一口 10,000円/年

●WEB

寄付サイト Syncable (シンカブル) にてオンライン決済が可能です。



●現金

ぶれいおん・とかち事務所まで直接お届けください。ご連絡いただければ集金に伺うこともできます。

●振込

ホームページ・お電話・メールにてご連絡の上、下記口座あてにお振込みください。

※ご連絡をいただければ、ゆうちょ銀行払込書をお送りします。

■ ゆうちょ銀行 二七九(ニナナキュウ)店 当座 0050014

ゆうちょ銀行間の場合、02780-2-50014 ぶれいおん・とかち

《その他の寄付》

- ・Amazon「みんなで応援プログラム」欲しいもののリストを公開しています。
- ・未使用の切手、書き損じハガキ 事務所まで郵送などでお届けください。
- ・「イオン幸せの黄色いレシート」毎月11日にイオン常広店で買い物をすると受け取ることができる黄色いレシートを「ぶれいおん」のBOXに投函いただくと【レシート合計金額の1%分の贈呈額】が当団体に寄付されます。



【発行・編集】

認定NPO法人 子どもと文化のひろば

ぶれいおん・とかち



〒080-2470 北海道常広市西20条南5丁目18-2

Tel/Fax 0155-36-0560

メール info@play-on-tokachi.net

LINE @playontokachi

HP https://www.play-on-tokachi.net



グッドガバナンス認証
2020G(1)0026



HP



Instagram